

教科(国語)科目(現代文)

1. 家庭学習のやり方

文章の読解力をつけるために

予習

- ・ 漢字の読み、書き、言葉の意味を辞書で調べてしっかりと理解しておく。
- ・ 文章をよく読み、指示語、接続語、同義語、対義語、頻出する語(キーワード)主題に関係していると考えられる文(キ-センテンス)等に印をつけてみる。
- ・ 文と文との関係を理解しながら、段落に分け、段落と段落の関係を考える。
- ・ 上記のことを参考にしながら、作者が何を(主題)どんな事柄によって(素材)どんな順序で(構成)どう表現しているか(叙述)をつかむ。

2. 授業でのノートの取り方

- ・ 予習してきたことを、参考にしながら板書事項を書き写し、解説を聞き、キーワード、キーセンテンス等が正しくつかめていたかどうかを確認する。
- ・ 国語が、不得意の人は、自宅でもう一度板書事項を書き写して、内容を整理しなおすと効果的です。(家庭用、学校用2冊ノートをつくる。)

3. 試験勉強の仕方

- ・ 学習した文章をもう一度よく読み返してみる。
- ・ ノートを見ながら、文章読解のポイントとなる部分をよく見直し、理解できているかを確認する。

4. 受験勉強の仕方

- ・ 上記1の内容を、応用問題集で実践する。わからなくてもすぐに解答を見てしまわずに、我慢して何度も文章を読み、主題をつかむ練習をする。(解答はすべて文章の中にある)
- ・ 答え合わせをした後、なぜそのような解答になるのかを、解答集にある解説をよく読み、理解する。なるべく多くの問題を解くこと。
- ・ 読書の習慣を身につけること。(むずかしい評論等にもトライする。わからないといって逃げていたら合格できませんよ。)

教科(国語)科目(古典)

1. 家庭学習のやり方

予習

- ・ 学習する古文を何度も音読する。
- ・ 古文をノートに書き写す。(文法事項、口語訳等を書き込めるスペースをとっておくこと)
- ・ 意味のわからない単語に印をつけ、辞書で調べる。
- ・ 文中にある用言(動詞、形容詞、形容動詞)助動詞、敬語等に印をつけ、わかる範囲でよいから、活用の種類・活用形や意味を横に書いておく。
- ・ 主語・述語に特に注意を払いながら、口語訳してみる。(きれいな日本語に訳せなくてもよいから、まず自分の言葉で訳すこと)
- ・ 予習をしないで古典の授業を受け、教員の口語訳を写すだけでは実力はつかない。

2. 授業でのノートの取り方

- ・ 授業をしっかりと聞き、予習した口語訳や文法等の訂正や、新しく学習した事柄を赤ペンで書き込む。
- ・ 授業での先生の説明は、すべて書き込むこと。

3. 試験勉強の仕方

- ・ 2で作成したノートを使って、文法事項等を確認しながら、一文一文口語訳してみる。あやふやな箇所は調べ直すか、先生に聞いて理解しておく。
- ・ 上記のことを何度も繰り返しながら、しっかりと記憶する。

4. 受験勉強の仕方

- ・ 古文単語を暗記する。(500語程度です)
- ・ 動詞、形容詞、形容動詞、助動詞、敬語等中心に文法事項をしっかりと理解し、暗記する。
- ・ 応用問題をひたすら解く。わからなくてもすぐに解答を見てしまわずに、我慢して何度も文章を読み、自分の解答をだすこと。
- ・ 辞書や参考書を使い、不明な点を明らかにしてもう一度問題をやり直してみる。(一度目の解答とペンの色を変える。)
- ・ 答え合わせをした後、なぜそのような解答になるのかを、解答集にある解説をよく読み、理解する。
- ・ なるべく多くの問題を解き、問題慣れすること。